

医療法人  
鎗田病院

広報誌

2002.04  
vol. 02

# はなみずき

## 正医師が西広に診療所を開設します。

現在は、検査をし、薬を出したり、手術をしたりするのが医師の仕事と考えられているふしがあります。しかし、本来、医者の方の生き方の原点は、小さなコミュニティで、例えば小さなインディアン部落におけるまじない師（又は長老）のように、周囲の人々に信頼され、相談にのったり、助言をしたりすることであると考えています。ちなみに英語のMedicineは「医学」と訳しますが、Medicine Manとは「まじない師」のことです。

私と正は、2人共、長年、大学で痛の仕事をしてきましたので、弟（正）が診断をつけて、兄（努）が手術をするという関係を鎗田病院で約20年続けてきました。おかげ様で鎗田病院もかなり大きくなり、優秀な医師が増えてきました。外科では、若い（といっても、普通世間では、中年のおじさんですが）小出医師や塚本医師がきちんとした手術をするので、私が手術室に入らない時間が少しづつ出来、往診をしたりすることが増えてきています。

私個人としては淋しいことですが、鎗田病院は新しい治療や手術をどんどん取り入れて、「急性期の病気をしっかり治療する」病院として発展し、地域のお役に立たなければならないと思っておりますので、人事が動いていくことは当然かもしれません。私も往診途中に気に入った景色などを見ますと、このあ



鎗田 正 先生

たりに診療所を開いて入院治療が必要になった患者さんを、鎗田病院に送る役割をすることを夢想したりすることがあります。

正より「少し疲れたよ」とのことです。西広の老健施設に併設して、診療所を開設するとの申し出がありました。4月13日に開院します。父が80才近くまで現役であったことを考えると、かなり早すぎるとは思いますが、時代の動きが昔に比べて早くなっていることを思うと仕方ないかもしれません。当院同様よろしくお願いします。

正の当院での診療は、4月からは毎週「水」曜日の午前中のみとなります。

当院への通院中の患者さんにご迷惑をおかけするのではと危惧しておりますが、後は内科の小川医師、豊崎医師、内海医師らが中心となり、また姪の吉川医師も加わり、職員一同頑張ってご迷惑をおかけしないよう、努力いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

院長 鎗田 努

以前より廊下や診察室などに

(1)「科学としての医学」「技術としての医療」「相手の立場を尊重し、心の通った人間関係」どれが欠けても、病院の存在意義はない。この三つをより高い次元で融合させる事を目標にしています。

(2) 地域に根ざし、地域の役に立つ病院を目指しています。

という当院の理念が掲げられていることに、お気づきのことと思います。

S 55年の暮れに、現在の本館が完成した時に、私、正医師、当時の副院長であった榎田隆医師等が話し合っ、医療に対する当院の姿勢として決めたものです。20数年この理念を「私達自身」へのメッセージとして仕事をしまりました。

最近、新聞、雑誌等で医療のあり方、病院の評価等として患者さん本位の医療が行われているか、患者さんの権利、意志等が適格に反映されているかの議論がなされています。そのため、現病院のスタッフより、自分達自身へのメッセージでなく、患者さんへのメッセージを理念に加えるべきだとの提案がありました。実際、多くの病院は「患者の権利」「患者のため・・・します」等（患者様という言葉を使っている病院が多い）を理念の第一に掲げています。まじめに医療に取り組んでいけば、患者さんのことを優先して考えるのは当然で、言わずもがなのことと思っていました。しかし、患者さんのない医療はありませんし、医療は双方向ものであるはずで、きちんとした「患者さんへのメッセージ」はぜひ必要であると考えるにいたりました。

しかし、現在マスコミや、医療の現場を本当には理解していない人々の掲げる「良い医師像」「良い病院像」「これからの医療のあり方」等は私達の考えているそれとは、少しずれがあります。今声高に言われているいくつかをあげてみますと、

(イ) 患者さんの知る権利、選ぶ権利を尊重するため、例えば「癌の告知」を行ったり、治療法の選択をまかせ

るのは良い医師である。

(ロ) 患者さんの人権を尊重するため「顧客」として接し、患者様と呼ぶのは良い病院である。

(ハ) これからの医療は情報を公開し（例えば手術成績等）評価を受けなければならない。

等々です。大筋においては正しいとおもいますが、現場では一考を要すると思うことがしばしばです。このことを書いていきますと、かなりしつこくなるので、詳しくは職員が発行している院内誌「きらら」に載せてもらうつもりですが、例えば(ロ)について少し考えてみます。患者さんは本当に「顧客」でしょうか。顧客とはビジネスの発想です。仕事、職業を英語ではjob、occupation、business、profession等といい、その意味するところは異なっています。医療で給料をもらい(occupation)、病院の機械を購入したり建物をたてたりする費用を作る(business)のでこれらの要素はかなりあることは事実ですが、医療は本来professionであるべきで、困難な判断をしなければならないときは、相手の立場で考えることが求められているはずで、このことを考えれば「患者様は顧客」という要素は減り、患者さんとの関係は、困難に立ち向かう「仲間」「同胞」「一緒に悩む人」であるべきだと考えています。現在医療環境は目まぐるしく変化しており、この他にも病院や医師のあるべき姿、患者さんと医師の人間関係の問題等々、深く考えていかなければならないことは山積みしていると思いますが、これらを色々考え合わせ、患者さんに対する私達のメッセージとしての理念は

(3) 病気に立ち向かう患者さんや家族の方々から一番頼りになる仲間として認められるよう努力します。にしたいと思います。

そのためには、病気に対する医学知識や検査等で知り得た情報を正しくお伝えすることや、一方通行にならない対話を大切にするなどはもちろんのことです。

よろしく御理解をお願い申し上げます。

## 鎗田 努 先生

昭和41年3月千葉大学医学部卒業。  
昭和46年3月千葉大学大学院修了。千葉大学(講師)に勤務。  
昭和55年10月鎗田病院勤務。  
昭和62年12月院長就任現在に至る。

## 小川 利隆 先生

昭和56年3月千葉大学医学部卒業。  
千葉大学附属病院(肺外科)、ゲッティンゲン大学胸部外科、  
千葉県予防衛生協会に勤務。  
平成12年4月鎗田病院現在に至る。

## ヘルスケアファイルを活用して、 糖尿病の自己管理を

糖尿病外来担当  
菅澤加代子



糖尿病は生活習慣病と言われる病気の一つで、現代の食生活と大きく関わっています。

さらに遺伝的体質がプラスされますので、現代医学でも完全に治すことが、難しいとされています。しかし、医師による適切な診断と治療と共に、この体質を上手に治療と共にコントロールしていけば、一生良い状態を保つことができ、一般の健康人とほとんど変わらない生活を送ることができます。当外来では、従来の小さな糖尿病手帳ではなく、ヘルスケアファイルを用いて指導にあっております。ヘルスケアファイルとは、現在までの治療内容（食事、運動、薬物療法）と共に、体重の増減や、血糖値を反映する指標としてのヘモグロビンA-Cの変化を、より明確になるようグラフ化して提示したものです。

また、検査科の協力もあり、ヘモグロビンA-Cは採血後すぐに、結果が明らかになるので、診察時にはその日の糖尿病コントロール値を見ながら、適切な指導を受けることができます。ヘルスケアファイルのメリットは、糖尿病の治療経過や血糖コントロールの状態が、ひと目でわかるようになっております。

不摂生な生活、暴飲、暴食、ストレスなどにより、体重増加や血糖の上昇を指摘された時は、このヘルスケアファイルを見て生活習慣を改め、個々の目標体重まで減らし、ヘモグロビンA-Cを平均値まで、下げるよう努力して下さい。日々の生活習慣を見直す資料として、このヘルスケアファイルを是非活用して頂きたいと思います。

### 菅澤 加代子

昭和64年3月千葉看護専門学校卒業。

昭和61年4月自動車事故対策センター附属千葉療護センター勤務。

平成8年10月鎌田病院現在に至る。

## 生活習慣病を理解するために



内科医師 小川利隆

### Q 生活習慣病とは？

A 以前「成人病」と呼ばれていた糖尿病、高脂血症、高血圧症など、多くの病気が当てはまります。

### Q では、なぜ呼び名が変わったのでしょうか？

A これらの病気は単に歳をとったから罹るわけではなく、多くは個人のライフスタイルに問題があることがわかってきました。

そこで、加齢だけが原因であるかのように聞こえる「成人病」から「生活習慣病」に呼び名が変わったのです。

### Q 何故、今注目されているのでしょうか？

A 生活習慣病の代表である糖尿病は患者数690万人、予備群も含めると1,370万人いると言われております（平成9年度厚生省（当時）調査）。そして、平成19年にはその患者数だけで1,080万人になると見積もられています。なんと今から5年後には国民の1割弱が糖尿病に罹ってしまうことが予想されているのです。

そこで、病気になった患者さんばかりでなく、現在健康な方々も病気にならない生活習慣を実践することが大切なのです。

### Q どんな生活習慣が問題なのでしょう？

A 多くの現代人が陥っている不規則な食事、カロリーの取りすぎ、そして運動不足などが悪い生活習慣です。

急速に進んでしまった食生活の欧米化も一つの悪い生活習慣と言えるでしょう。ファーストフードに頼った食事は改める必要があります。運動不足について言えば、自動車の登録台数と糖尿病患者数は正比例しているというデータがあります。なるべく自分の足で歩く習慣をつけましょう。

食事と運動の両面から私たち各自の生活習慣を見直すことが、今切実に求められているのです。

## “赫々たる功績をのこして鎗田衡平氏が引退”

(昭和50年11月 千葉日報新聞記事抜粋)

「川を美しくする会」の会長・鎗田衡平氏（平成8年5月没）が5月30日引退、二代目会長に大木武夫氏（養老）が就任した。

鎗田氏は、河川の水質汚濁、ゴミの不法投棄等を憂え、昭和42年5月発足した「市原市川を美しくする会」の会長として、環境保全に係る標語の募集、ちらし、ポスターの配布、立看板の設置などの啓蒙及び河川清掃等、河川の美化、愛護運動を積極的に展開、特に養老川周辺の塵芥による汚水は氏の尽力により年々好転し、その献身的な行為は尽大なものがあり、昭和62年までの20年の功績は絶大で、60年度には「千葉県環境



賞」が授与された。なお一方、医師会長、県医療法人会役員、県産業健康保険組合役員としても活躍した。

## 回想の鎗田病院

一番古い患者 楠美 清子

私が恩師に連れられて鎗田病院を訪ねたのは、昭和31年頃である。

玄関左手に大きい藤棚と並んで郵便ポストが立っていた。短い検査の入院、永い間の入院まで、どれ程お世話になった事であろう。その度にこのポストにも助けられた。間もなく二階建ての病棟が建ち、この病室には六ヶ月近い入院となる。窓外は内房線から小湊線路まで遮るものなく見渡せた。目の前には五井中学校。これも島の中を通ると校舎まで続く。新学期になると、この島の道々を行く校長先生の姿が見られ、又校舎からは賑やかな生徒達の声や、登下校の姿が気分を和ませてくれた。夕暮れと共に校内は静まり、代って列車の汽笛。線路を走る車輛の軋みや踏切の警鐘。往診から戻られる院長先生のオートバイの音もこの時刻。

夕闇に包まれる前の慌しいひとときのこれ等の音の中、刻々変化する雲の彩りを眺める日々であった。

健康になった私は東京オリンピックが終わった翌月に上京。東京の過疎地、北多摩を職場に選んだ。

移った当時は処々に武蔵野の柵を残す中、澄んだ空、

湧水の水道塔、この傍に立つ航空管制塔。穏やかなこの環境にも早、人口集中の波は押し寄せていた。幸うじて維持できた健康はこの周囲の変化に合わせるように悪くなり一週間をまともに務められぬ日々が続き近くの病院から都心まで通院したが思わしくない。再び院長先生をお願いする。病院もこの頃は旧棟が鉄骨二階病棟に変わっていたし、まわりの島は宅地が変わっていた。職場では鎗田病院を「千葉の病院」と呼び、私の体調がおかしくなると「千葉の病院」を尋ねた。親切心と多分に私への警鐘でもあった。重ね重ねのお願いの中には、ずい分無理も申し上げたが、その都度早い復帰を考えて下さるご配慮に頭が下がった。

遂に私も嬉しい定年。人生は山あり谷ありと云うが、私には谷ばかりであった感。その淵から這い上がった心境。これは偏に院長先生の御力に尽きる。かつての恩師との出会いを経て院長先生をお願いした日の出会い。私の健康は常にその上にあるのだと、思いを新たにす次第である。



医療法人 **鎗田病院**

〒290-0056 千葉県市原市五井899

TEL ▶ (0436) 21-1655

FAX ▶ (0436) 21-3197

[www.yarita-hosp.or.jp](http://www.yarita-hosp.or.jp)

E-mail ▶ [info@yarita-hosp.or.jp](mailto:info@yarita-hosp.or.jp)

## 編集後記

本誌第1号を発刊して間もないのですが、お蔭様で、地域の皆様にご愛用いただき、1ヶ月の間に1500部の「はなみずき」がなくなりました。最近になって先代の「鎗田衡平先生の回想録」が有志によって発刊されました。その中に、大先生が医務に励む一方で、既に昭和42年頃から市原市の川を美しくする運動を起こしていた、ありし日のお姿を見ることができました。また、大先生から現在に至るまで、当院を利用して下さっている患者さんの一文も目にとまりましたので、お断りして掲載させていただきました。これからも地域の皆様から愛され、愛されていく病院を目指しておりますので、当院の思い出やご意見などご投稿いただければ幸いです。 (編集委員 北村)